

- 長野県との学生募集共同 PR 事業  
「信州で学ぼう！」特集
- 長野県大学連携シンポジウム  
「大学と地域社会との連携を考える」開催報告
- インターンシップ成果発表会開催報告
- 第 1 回県内大学 FD セミナー  
「高年次及び大学院における英語力強化を  
支援する e-Learning コースの紹介」開催報告
- 第 1 回県内大学市民開放セミナー  
「意外と知らない「高野野築」のはなし」開催報告
- H26 年度前期「遠隔授業」受講状況について
- 賛助会員募集のお知らせ
- 活動報告・予定
- 編集後記

高等教育コンソーシアム信州事務局  
〒390-8621 長野県松本市旭 3-1-1 信州大学学務部学務課内  
電話：0263-37-2427 FAX：0263-36-3044  
URL：http://www.c-snet.jp/ MAIL：office@c-snet.jp

※「S-NET」は高等教育コンソーシアム信州の通称です。「S」は Shinshu・Self-Study・Share・Scale・Social を表し、「NET」は情報通信・教職員・学生間のネットワークを表します。

## 長野県との学生募集共同 PR 事業「信州で学ぼう！」特集

当コンソーシアム信州では、今年度より、長野県と共同で学生募集について発信していく PR 事業「信州で学ぼう！」を行うこととなりました。また、6月23日(月)には、これについての記者会見が執り行われました。



記者会見の様子

6月23日(月)、県内の大学で学ぶ魅力を発信しようと、長野県知事と当コンソーシアム信州に加盟する県内8大学が、「信州で学ぼう! 大学発信事業」に関して共同で記者会見を行いました。冒頭に、矢部推進チーム会議リーダー(信州大学教授)から、事業の目的・背景・内容等について説明があり、続いて長野県知事の阿部守一氏及び当コンソーシアム信州の会長である信州大学 山沢清人学長が、「心豊かで充実した大学生活、将来の就職やキャリア形成にも着実に結び付く信州ならではの学びを全力でサポートする」との声明文を読み上げました。

今年度を取り組み元年とし、県とコンソーシアムとの連携を図り、信州で学び、信州で暮らすことの魅力を県内外に発信する積極的な広報活動を行います。具体的には、県及びコンソーシアム加盟大学の有する情報・資源を出し合って、信州で学ぶ魅力を示すコンテンツを作成し、多くの皆様に見ていただくために、様々なメディアや場面でアピールしていくことを検討しています。今年度は主に県内を中心にポスター・リーフレット、Web サイトなどを通じた広報活動を行い、県内大学の志願者増加のための取り組みを展開していきます。

## 長野県大学連携シンポジウム「大学と地域社会との連携を考える」開催報告

2月20日(木)に松本大学にて開催されたこのシンポジウムは、信州大学(松本キャンパス、教育学部、農学部)、長野県看護大学、佐久大学、諏訪東京理科大学、清泉女学院大学、長野大学へ遠隔配信されました。当日は、県外・県内大学教職員や県・市町村関係者等、約100名の参加がありました。

今回は、当日のパネルディスカッションのコーディネーターを務めた、矢部正之先生(信州大学)による実施報告を紹介いたします。



高等教育コンソーシアム信州  
推進チーム会議リーダー  
矢部 正之  
(信州大学 高等教育  
研究センター教授)

平成26年2月20日(木)、主会場を松本大学にして遠隔講義システムでの加盟大学への配信を交えて、長野県大学連携シンポジウムが、当コンソーシアム主催で開催されました。「大学と地域社会との連携を考える」をテーマにしたこのシンポジウムには、加盟大学関係者や地域自治体関係者を中心に約100名の参加がありました。当日は、松本地区が大雪に見舞われた直後で、交通網の乱

れもありましたが、遠隔配信システムの威力が発揮されるとともに、主会場の松本大学に来ていただいた方も多くいらっしゃいました。

コンソーシアム会長である山沢信州大学長の挨拶に続き、阿部長野県知事の挨拶(代読)があり、県の期待の大きさが示されました。長野県では、『しあわせ信州』をスローガンに、地域の課題解決に向けた高等教育における人材育成にも、力を入れていくことが表明されました。コンソーシアムとしても、これまでの単位互換事業とそれに基づく遠隔授業の実施に加え、地域と連携した様々な事業に取り組むことになっており、このシンポジウムはそのキックオフ的位置づけとしておりましたので、今後の地域連携活動に弾みがつきました。

続いて基調講演として、自治大学客員教授(前自治大学校長)である武居丈二氏による講演「まちづくり政策と地域経営-産学官連携でめざす地域づくり-」がありました。武居氏は、総務省および岩手県の職員を歴任され、地域活性化に努力されてきた経験をお持ちで、その中から、人と人が結びついてつながり、相互作用することで可能となる「創発」が、地域に

活力を与える源となる、と述べられました。地域と大学においても、「つながる」仕掛けや仕組みを作っていくことが重要であると、指摘されました。今後のコンソーシアムの地域連携活動においても、県などの行政と大学という違う文化を持った組織を、上手くつなげ、その違いから新たな知見や解決策が出現してくることを、期待させるお話でした。

基調講演の後、コンソーシアム加盟の各大学(諏訪東京理科大学、長野大学、松本大学、信州大学)における地域連携やまちづくりに関する事例が紹介されました。この事例報告と基調講演を基に、上記事例の報告者に武居氏と県の上原氏(商工労働部ものづくり課長)を交え、シンポジウムテーマに関するパネルディスカッションが行われました。

最後に、主会場となった松本大学の住吉学長が、コンソーシアム加盟大学それぞれが違う特徴を持ち、それを活かして様々な方法で地域連携・貢献を進めている長野県の強みを示し、シンポジウムを総括され、コンソーシアム副会長の野原長野大学長の閉会挨拶で、シンポジウムが閉じられました。



パネルディスカッションの様子

## インターンシップ成果発表会開催報告



信州大学 加藤広章さんによる発表の様子

1月22日(水)に開催された「インターンシップ成果発表会」では、遠隔配信システムを用い、5大学7名の学生が発表を行いました。官庁、市役所、メーカー、百貨店など、学生がインターンシップに何った先は多岐に渡り、得るものも業種によって様々だったようです。

地域の企業や団体と連携したインターンシップによって、学生が能動的に学び、現場での実践を通じて自らのキャリア形成につなげていく様子を感じられました。

発表会の参加者からは、「他大学の事例が聞けて参考になった」「大学生の4年間の使い方の大切さを知った」等の意見があり、「働くこと」について考える良い機会となったようです。

## K<sub>3</sub> 茶論の名称が変わりました！（県内大学 FD セミナー、県内大学市民開放セミナー）

平成 21 年より、当コンソーシアムでは毎回異なる講師の方に講演頂く「K<sub>3</sub> 茶論」を開催して参りましたが、分かりやすい名称を用いることで皆様により気軽にご参加頂けるよう、平成 26 年 4 月より、「県内大学 FD セミナー」または「県内大学市民開放セミナー」と改称することになりました。県内大学 FD セミナーは教職員向け、県内大学市民開放セ

ミナーは教職員・市民向け、というように、講演の内容によりいずれかの名称を用いますが、どちらも多くの方に広くご参加頂きたいと考えております。

なお、セミナーの様子は当コンソーシアム Web サイト (<http://www.c-snet.jp/>) にてご覧いただけます。

## 第 1 回県内大学 FD セミナー 「高年次及び大学院における英語力強化を支援する e-Learning コースの紹介」開催報告



元信州大学繊維学部教授  
桑井資行氏

5 月 20 日（火）に開催された第 1 回県内大学 FD セミナーは、信州大学から県内大学へ向けて遠隔配信され、計 40 名が参加しました。

講演では、元信州大学繊維学部教授である桑井資行氏より、ご自身が開発された e-Learning コースについて、実演も交えながらご紹介いただきました。教材には話題のトピックスを使用し、インターフェースを工夫することで、学習者が引き込まれる仕掛けについて力を入れているとのことでした。

講演後のアンケートでは、ご紹介いただいた e-Learning コースについては概ね好評で、「英語学習においてとても有用なシステムだ」「このシステムをより多くの学生に知ってほしい」「学生に継続的に取り組んでもらうような工夫があるとよりよいと思う」等の意見が聞かれました。

## 第 1 回県内大学市民開放セミナー「意外と知らない『高原野菜』のはなし」開催報告

6 月 10 日（火）に開催された第 1 回「県内大学市民開放セミナー」は、信州大学農学部附属アルプス圏フィールド科学教育研究センター 岡部 繭子助教を講師に迎え「意外と知らない『高原野菜』のはなし」をテーマに、高原野菜栽培の現状と我が国の野菜生産の中における高原野菜の意義につ

てご紹介いただきました。高原野菜ならではの栽培方法や収穫以降の鮮度保持の方法などについてお話しいただき、参加者からは「意外と知らないお話が聞けた」「レタスの鮮度の保ち方などについて知ることができおもしろかった」といった声が聞かれました。

## 平成 26 年度前期遠隔授業受講状況について

平成 26 年度前期は 11 科目が開講され、県内 8 大学の学生 734 名（うち単位互換受講者 50 名）が受講しています。遠隔授業では、当コンソーシアムの遠隔講義システムを利用して、自大学にいながら県内の他大学の授業を履修することができます。遠隔授業を受講して修得した単位は、長野県内大学単位互換協定に基づき、所属大学の単位として認定されます。

### 平成 26 年度前期 遠隔授業受講状況一覧表

（単位：人）

授業科目名	担当教員	受講登録者		聴講	合計	
		全体	うち単位互換受講者※			
月 1	英語基礎 I（たてなおしの英語 I）	田村亮子（清泉女学院大学）	63	20	14	77
月 2	検索の科学	鈴木治郎（信州大学）	79	1	0	79
月 5	ドイツ語初級（総合） I	松岡幸司（信州大学）	58	4	0	58
火 4	キャリア形成論 I－本当の自分を理解するステップ－	小池健一・霜鳥 光（信州大学）	154	0	0	154
水 1、金 3	中国語 I	ビラール・イリヤス（長野大学）	49	0	0	49
水 3、4	国際看護学 I	宮越幸代（長野県看護大学）	12	7	0	12
水 5	ドイツ語中級（読解） I （現代ドイツの言語と日常ゼミ）	松岡幸司（信州大学）	16	0	0	16
木 4	物理学の世界	矢部正之（信州大学）	50	2	0	50
金 1	看護倫理学	八尋道子（佐久大学）	110	16	0	110
金 4	キャリア形成論 I－本当の自分を理解するステップ－	小池健一・霜鳥 光（信州大学）	129	0	0	129
e-learning	日本人のための英作文練習ゼミ	加藤鉦三（信州大学）	14	0	0	14
計			734	50	14	748

※「単位互換受講者」は「受講登録者全体」の内数。

## 賛助会員募集のお知らせ

県内高等教育と地域の発展を目指す当コンソーシアムを、サポートして下さる会員を募集しています。詳しくは当コンソーシアム事務局までお問い合わせください。

■年会費 特別会員（長野県内地方公共団体）、賛助会員（団体・個人）とも、1口1万円、1口以上

### ■会員特典

- ①当コンソーシアム公式 Web サイトに、会員として社名（団体名・個人名）を掲載させていただきます（リンクを貼ることも可能です）。
- ②当コンソーシアムのパンフレットに、会員として社名（団体名・個人名）を掲載させていただきます（ただしパンフレットは年1回発行のため、年度途中で会員になった際は掲載できないことがあります）。
- ③当コンソーシアムが主催するフォーラムや講演会の案内をお送りいたします。
- ④「S-NET NEWSLETTER」など当コンソーシアムの刊行物をお送りいたします。
- ⑤会員団体の企画を当コンソーシアムが後援いたします。

## 活動報告・予定

当コンソーシアムの最近の主な活動は、次の通りです。

- 平成26年 1月15日(水) 第34回K<sub>3</sub>茶論「食べること、QOLを支援する口腔ケア」開催
- 平成26年 2月20日(木) 長野県大学連携シンポジウム「大学と地域社会との連携を考える」開催
- 平成26年 3月 3日(月) 第35回K<sub>3</sub>茶論「蕪村の俳画」開催
- 平成26年 5月20日(火) 第1回県内大学FDセミナー「高年次及び大学院における英語力強化を支援するe-Learningコースの紹介」開催
- 平成26年 6月10日(火) 第1回県内大学市民開放セミナー「意外と知らない『高原野菜』のはなし」開催
- 平成26年 6月 4日(水)・25日(水) 信州大学高等教育研究センター「大学生の心理と理解」FDシリーズ「学生とつながる・つなぐ～自殺を防ぐための第一歩」第1回・第2回を加盟大学に配信
- 平成26年 6月23日(月) 長野県との学生募集共同PR事業「信州で学ぼう！」記者会見
- 平成26年 8月 7日(木) 第2回県内大学市民開放セミナー「世界の人々のヘルスケアと国際協力」開催
- 平成26年 8月24日(日)～26日(火) 「第7回ピア・メンター育成キャンプ」開催予定
- 平成26年 9月 第3回県内大学市民開放セミナー開催予定
- 平成26年 9月13日(土)・14日(日) 「第11回全国大学コンソーシアム研究交流フォーラム」参加予定
- 平成26年 9月22日(月) 信州大学総合健康安全センター「メンタルヘルス講演会」を加盟大学に配信予定
- 平成26年10月 信州大学高等教育研究センターFDシリーズ「大学生の心理と理解」FDシリーズ第3回・第4回を加盟大学に配信予定
- 随 時 県内大学間の交流会を開催

## 編集後記

長野県との共同PR事業もスタートし、当コンソーシアム信州は活動の幅を一層広げつつあります。加盟大学とも協働しながら、当コンソーシアムは今後も地域貢献・地域発展につながる活動に力を注いでまいります。

